

令和 6 年度

外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業 事業成果報告書

【外部講師を活用して実施するがん教育の推進に係る取組】

1 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

【内訳】

県医師会代表（心臓外科専門）1人、がん専門医1人、大学講師1人、県薬剤師会代表1人、がん経験者1人

P T A 2人、校長4人、保健主任1人、養護教諭1人、県健康福祉部（連携）1人、県教委5人

2. 開催時期、検討内容

○ 第1回山口県がん教育推進協議会（令和6年7月11日）

(1) これまでの学校におけるがん教育推進の成果と課題について

(2) 「学校におけるがん教育」推進事業の実施計画（案）について

(3) 協議（課題解決に向け）

①外部講師を活用したがん教育実施校の拡充について

・実施率の向上を図るには、どうすればよいか。

②授業・講演会のさらなる充実について

・保護者、地域等の参加者を増やすには、どうすればよいか。

・がん教育の普及啓発を図る効果的な取組にするには、どうすればよいか。

③外部講師の更なる拡充について

・外部講師育成のためのオンライン研修会への参加者数を増やすには、どうすればよいか。

・外部講師として「協力できる」と回答した方の活用を図るには、どうすればよいか。

○ 第2回山口県がん教育推進協議会（令和7年1月30日）

(1) 今年度の学校におけるがん教育の取組について

(2) 今年度の事業推進の成果と課題について

(3) 来年度の方向性について

①学習指導の充実

②外部講師を活用したがん教育に課題を抱えている市町への支援

③外部講師の研修機会の確保

(4) 今年度の事業実施校の取組について

①長門市立仙崎小学校の取組

②山口県立防府西高等学校の取組

③周南市健康づくり推進課の取組

(5) 協議（実施率の向上に向けて）

①新規実施校を増やすには、どうすればよいか。

②継続して実施していくためには、どうすればよいか。

(6) 協議会委員によるがん教育に関するアンケート



② 教育委員会としての取組

1. 事業実施校に外部講師（医療従事者、がん経験者、大学講師、がん関連団体等職員）を派遣（公開授業・講演会の実施）

2. 学校におけるがん教育研修会の実施

- 令和6年度学校におけるがん教育研修会（山口県庁）
 - （1）開催日 令和6年9月13日（金）
 - （2）対 象 事業実施校担当教職員、外部講師
 - （3）内 容 所管説明、事業説明、グループ協議



3. 学校におけるがん教育に係る外部講師拡充のためのオンライン説明会

- （1）開催日 令和6年12月19日（木）
- （2）対 象 医療関係者、行政関係者、がん経験者等
- （3）内 容 所管説明、事業説明、事例発表、質疑応答



・事例発表「学校におけるがん教育について外部講師として伝えたいこと」

事例発表者 山口大学医学部附属病院腫瘍センター 准教授 井岡 達也 氏

事例発表者 山口県立大学看護栄養学部看護学科 講 師 高田 千鶴 氏

4. 実践事例の周知

- 今年度事業実施校の実践事例を Web サイトにて紹介

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

1. 県健康福祉部医療政策課との連携

- 山口県がん教育推進協議会を共同運営（事業の円滑な実施に向けた連携・協力）
- がん診療連携拠点病院やがん患者団体、市町がん対策担当課への情報提供
- 山口県がん対策協議会への出席

2. 市町がん対策担当課との連携

- 本事業公開授業・講演会や研修会への参加

（2）外部講師を活用したがん教育の授業

1. 小学校（3校）

- 長門市立仙崎小学校

- （1）日 時 令和6年10月7日（月）
- （2）学年・実施科目 小5年、特別活動（学級活動）
- （3）外部講師 Pink Ring 西日本支部代表 井上 裕香子 氏
- （4）授業内容 「がんを学ぼう！あなたと大切な人の命のために」



- ①自分の現在や未来の健康について考える。
- ②がんの現状について知る。
- ③がんの原因について知る。
- ④がんの早期発見・早期治療の重要性を理解する。
- ⑤がんにかかるリスクを減らすために、何ができるか考える。
 - ・自分がどんなことに気を付けて生活するか。
 - ・大切な人にどんなアドバイスをするか。
- ⑥本時の学習を振り返り、ワークシートに記入する。



2. 中学校（2校）

○萩市立川上中学校

- (1) 日 時 令和6年10月1日（火）
(2) 学年・実施科目 中2年、保健体育科・保健分野
(3) 外部講師 普賢寺住職 認定臨床宗教史 病院ボランティア 榎野 統胤 氏
(4) 授業内容 「健康な生活と疾病の予防」

～がんについて身近な人に伝えたいこと～

- ①がんについて知っていることやイメージについて話し合う。
②がんについて知る。
③がんが発生する原因が何かを考える。
④講師講話をきく。「がんになるということ、がんに関わった人と関わるということ」
⑤講話や萩市健康増進課からいただいた資料を基に、がん検診を受けない未受診者にがん検診を受けてもらうにはどんな声かけをするか考える。（萩市健康増進課資料）
⑥がん検診受診率（全国、県、市）
⑦がん検診を受けない未受診者の理由
・「毎年受ける必要を感じない」 ・「検査に伴う苦痛に不安がある」
・「めんどうだから」 ・「心配な時はいつでも医療機関を受診できる」
⑧本時の学習を振り返り、ワークシートに記入する。



3. 高等学校（4校）

○山口県立防府西高等学校

- (1) 日 時 令和6年11月13日（水）
(2) 学年・実施科目 高3年、特別活動（学級活動）
(3) 外部講師 Pink Ring 西日本支部代表 井上 裕香子 氏
(4) 講演内容 「がんになって見えたもの」～若年性乳がん体験者として～

- ①自分の現在や未来の健康について考える。
②がんの現状について知る。
③がんの原因について知る。
④がんの早期発見・早期治療の重要性を理解する。
⑤がんにかかるリスクを減らすために、何ができるか考える。
・自分がどんなことに気をつけて生活するか。
・大切な人にどんなアドバイスをするか。
⑥本時の学習を振り返り、ワークシートに記入する。



(3) その他

1. 学校におけるがん教育に係る外部講師拡充のためのオンライン説明会参加者への連絡

- (1) この説明会（研修含む）は、令和4年からこれまで実施しており、今年で3回目となる。令和4年から令和6年度の受講者で、今後外部講師として『協力できる』と回答した人は、これで28名となった。
(2) 令和4年度、5年度の参加者へ、令和6年度の「学校におけるがん教育」を研修会として参加を呼びかけたところ、延べ8名が参加した。

2 事業の達成度について

(1) 事業計画書に位置付けた取組内容に対する成果について

1. 教職員への啓発と資質の向上

○教職員等対象の各種研修会におけるがん教育に係る所管説明、資料提供等の実施

(1) 高等学校体育主任会議における所管説明	体育主任	58名
(2) 山口県学校保健主任研修会	保健主任	55名
(3) 養護教諭新規採用者研修講座における所管説明	養護教諭	5名
(4) 中堅養護教諭資質向上研修講座における所管説明	養護教諭	9名
(5) 周南市中学校研修会保健主任部会	保健主任	14名
(6) 令和6年度山口県教師力向上プログラム 「教師力養成講座」における講義・演習	大学生	36名

2. 児童生徒への啓発と学習指導の充実

(1) 学校におけるがん教育研修会（対象：事業実施校の担当教員）

①講話「がん患者の思いを伝える授業」 ～がん教育外部講師と学校側との取り組み～

講師 ポポメリー代表 藤本育栄 氏

②協議、グループワーク

テーマ：「外部講師を活用したがん教育のねらいと事前打合せ」

「外部講師を活用したがん教育終了後の振り返り」

(2) 授業検討会

担当教員、外部指導者、県教委の担当者による、学習内容、準備物、配慮事項等の綿密な事前打合せを行った。

①対面打合せ・・・3校

②Web 打合せ・・・5校

(3) 外部講師の拡充

①外部講師拡充のためのオンライン説明会

・学校におけるがん教育に係る外部講師拡充のためのオンライン説明会

日時 令和6年12月19日（木）14：30～16：00

場所等 オンライン

参加者 15名（医療関係者7名、行政関係者3名、がん経験者またはその家族5名）

内容 所管説明、事例発表、質疑応答等

事例発表テーマ「学校におけるがん教育について外部講師として伝えたいこと」

事例発表① 山口大学医学部附属病院腫瘍センター 准教授 井岡 達也 様

事例発表② 山口県立大学看護栄養学部看護学科 講師 高田 千鶴 様

②事業実施校の授業参観

・R4、R5年度外部講師拡充のためのオンライン説明会受講者の参加 6名（延べ8名）

(4) その他

①ICTの活用、オンデマンド配信の実施について (1月30日現在)

・山口県立防府高等学校（1学年279名） 12月10日実施 再生数56回

・山口県立宇部商業高等学校（全331名） 12月18日実施 再生数17回

※ 視聴対象者は、保護者と学校関係者

②令和6年度公開授業・講演会実施報告書公開（予定）について

・授業・講演会実施後の報告書を、学校安全・体育課ウェブページに掲載。

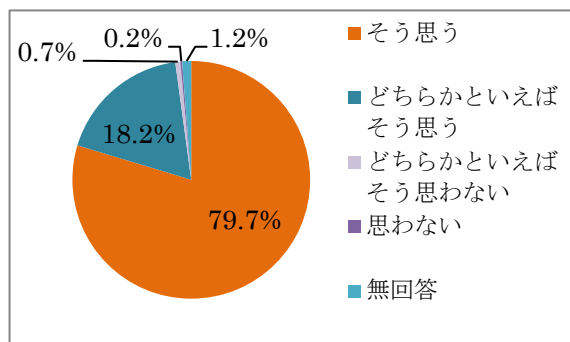
(2) 児童生徒の事前・事後アンケート結果について

1. がんの学習についてあてはまるもの

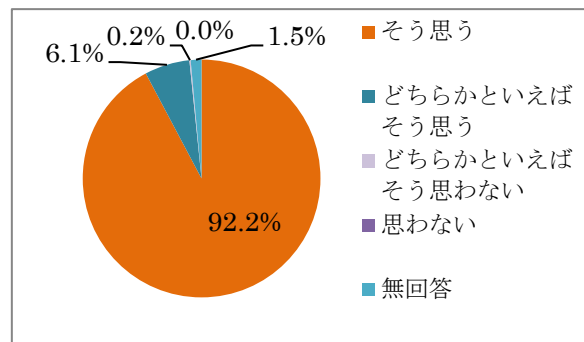
質問 a 「がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ」では、事業実施前から「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」（以下、「肯定的な回答」）と答えた割合は 97.9%であり、児童生徒はがん教育の重要性は感じていた。その中でも、「そう思う」と回答した児童生徒の割合が 79.7%から 92.2%に増加しており、意識の高まりがみられた。

【質問 a 「がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ」】

【事前】



【事後】



また、質問 b 「がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ」も、事業実施前から肯定的な回答をした者は 97.8%と非常に高かったが、その中でも「そう思う」と回答した児童生徒が 79.7%から 92.2%に増加しており、学習の有用性を感じている児童生徒の割合が増加した。

2. がんについて当てはまるもの

すべての質問が「正しい」「誤り」の 2 択である。

質問 a 「がんは誰もがかかる可能性のある病気である」、b 「がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある」、d 「たばこを吸わないこと、バランスよく食事すること、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある」、e 「早期発見すれば、がんは治りやすい」では、事前のアンケートから正しく知識を得ている割合が 9 割以上と多い結果となった。

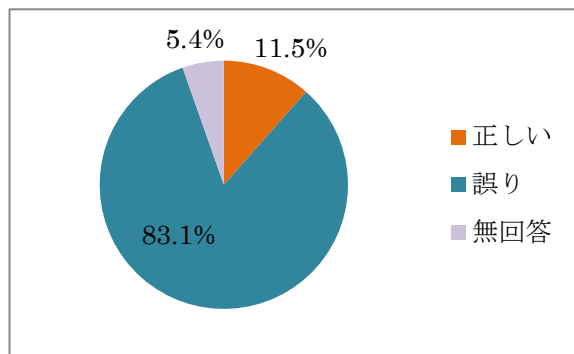
質問 f 「体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い」、g 「がんの治療法には手術治療しかない」についても、事後アンケートから正しく知識を得ている割合が 9 割以上と変容し、学習効果が伺えた。

質問 h 「がんの痛みは我慢するしかない」では正しく知識を得ている回答の割合にあまり変化がなく、講師がこの視点について、学習内容に触れる機会が少なかったことが原因と考えられる。

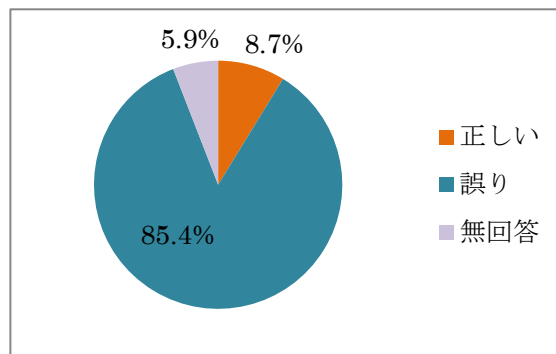
がんの知識について、事後アンケートから全ての項目において、正しく知識を得ている割合が概ね 85%以上と理解度が高まり、児童生徒へのがん教育に対する理解は高まったと考えられる。

【質問 h 「がんの痛みは我慢するしかない」】

【事前】



【事後】



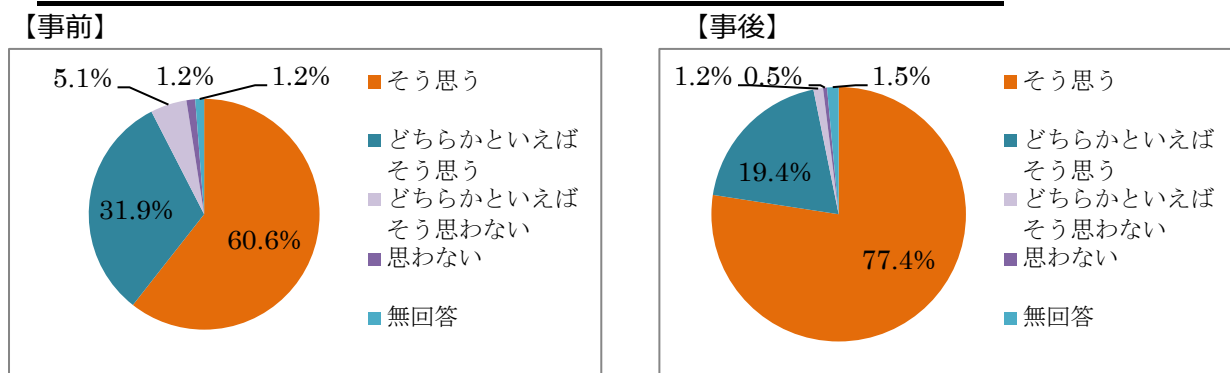
しかし、質問d「たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある」では、わずかではあるが、誤答の割合が高くなっていた。授業の内容の一部が印象に残り、誤って理解する児童生徒もいると考えられる。児童生徒が正しい知識を得るためにも、小、中、高等学校で、繰り返し、がん教育を実施する必要がある。また、児童生徒にアンケート結果をフィードバックし、正しい知識の確かな定着を図る必要がある。

3. がんについて当てはまるもの

質問b「将来、たばこは吸わないでいようと思う」、c「日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う」、d「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」、f「がんになっても生活の質を高めることができる」、g「がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい」、h「がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う」、i「家族や身近な人が健康であってほしいと思う」、j「長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う」のすべてにおいて、「そう思う」と回答した割合が増えている。

また、c、d、f、g、hについては望ましい回答をした割合が10%以上増加しており、特に、本県の課題であるがん検診の受診率に係る質問d「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」については、「そう思う」と回答した割合が60.6%から77.4%と16.8%増加した。

【質問d「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」】



質問h「がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う」については、一番変容があった項目であり、望ましい回答をした割合が18.8%増加した。これは、がん経験者や医療従事者が外部講師として家族や多くのがん患者と向き合ってきた経験からによる思いのこもった講話を受け、児童生徒の意識が大きく変容したと考えられる。

(3) 事業全般に係る成果について

1. 本事業実施校の拡充

学校におけるがん教育の目的である「①がんについて正しい知識を学び、正しく理解することができるようにする。」「②自他の健康と命の大切さについて、主体的に考えることができるようにする。」について、今年度実施校の9校について、事前事後のアンケート結果から概ね達成できたことが伺える。これも、実施校の教職員や外部講師の綿密な事前打合せや、実施後の授業の振り返りを児童生徒が確実に行ったことが効果を高めた要因と考えられる。

2. 研修会や説明会による外部講師の拡充及び資質向上

令和4年度以降、「外部講師拡充のためのオンライン説明会」を実施している。今年度、過去に受講し、外部講師に「協力できる」と回答いただいた方にも連絡を取り、公開授業が自己研鑽を積むための研修の場として、参加を促した。多くの協力者が参観し、外部講師の資質向上につながった。

3 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題等）

（１）今後の課題

①授業内容を誤って理解してしまう児童生徒

事業前後のアンケート結果から、わずかではあるが、誤答の割合が高くなっている項目があった。授業内容の一部が印象に残り、誤って理解してしまう児童生徒がいると考えられる。正しい知識の定着のため、小・中・高等学校で、繰り返しがん教育を実施する必要がある。

②外部講師を活用したがん教育の実施率向上

年を追うごとに徐々にではあるが、実施率は向上している。しかし、更なる普及・向上が必要と感じている。「新規実施校を増やすには、どうすればよいか。」「一度実施した学校が、継続して実施していくためには、どうすればよいか。」が今後の課題である。

③外部講師のスキルアップ

外部講師を希望している医療従事者やがん経験者の自己研鑽の場を設定していく必要がある。

（２）次年度に向けた方向性

①学習指導の充実

今年度の「授業内容を誤って理解してしまう児童生徒」が一定数いることを学校の教職員と外部講師に周知する等、事前の授業検討会や事後の振り返り活動についての打ち合わせをより一層丁寧に行う。また、「学校におけるがん教育研修会」のより充実した研修内容を企画する。

②外部講師を活用したがん教育に課題を抱えている市町への支援

市町教委担当者の「学校におけるがん教育研修会」への参加を促し、学校におけるがん教育の進め方について研修を深める。また、がん教育の推進に課題を抱えている市町教委担当者に「がん教育シンポジウム（文部科学省）」への参加を促す等、がん教育のより一層の充実を図っていくことを推進する。

（３）外部講師の研修機会の確保

令和４年度から令和６年度までの外部講師拡充のためのオンライン説明会で「協力できる」と回答し、今後も協力できる方が現在２８名いる。外部講師のスキルアップを目的とし、次年度の事業実施校の授業参観を研修機会と捉え、資質向上につなげていく。